

2006年3月号

第2回「環境事業支援政策研究会」 開催報告

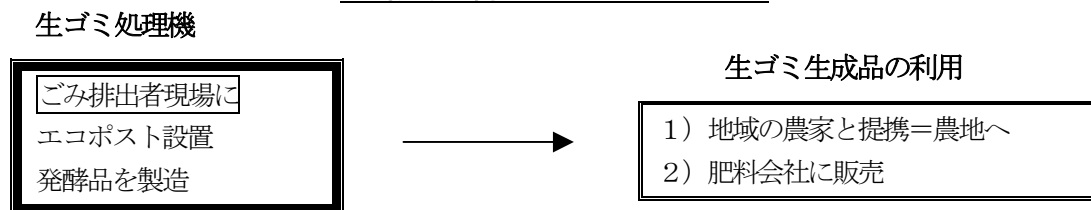
2005年12月16日(金)、午後6時30分から東京都生協連会議室にて「第2回環境事業支援政策研究会」が開催されました。

今回は、(株)有機発酵 松村代表取締役と(株)エコサポート 小沢常務取締役からそれぞれの循環型システムの取り組みについてお話を伺いました。

「(株)有機発酵の食資源循環システムについて」

(株)有機発酵 松村代表取締役

有機発酵のリサイクルシステム



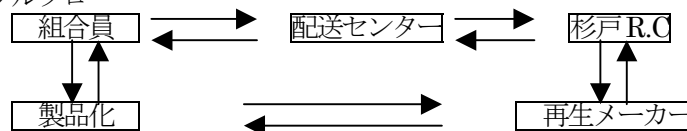
コープとうきょう高倉店・北野台店から出た生ゴミを発酵分解し、コンポストを生成。八王子の農家で使用し出来た農作物は再び各店舗へ還元。その他の取引先、港区役所、富士通、パレスホテルなど。機械を導入するときに、農家サイドとの打ち合わせなどのコーディネイトを行い、作付け方法、栽培計画、問題発生時の解決・調整なども行う。また、機械は万能だということではなく、生ゴミ排出者側での徹底した分別の基本。これは食資源循環では重要なことである。

これからの農業を考えると、現在、農業はアメリカ主導型になっているが、種をアメリカから買わなくてもすむように日本独自の種苗や農作物を大切に残してもらいたい。

「エコサポートの環境事業について」

(株) エコサポート 小沢常務取締役

- リユース・リサイクルの現状
 ビンリユース 202万本 ABパック 139t 卵モールドパック 604t
 資源プラスチック 290t 商品カタログ 8250t 紙パック 747t
- 組合員とのコラボレーション
 ☆エコ・カレンダーの取り組み ☆くらし貢献(ライフスタイル) ☆車社会からの脱却、支援など
- 事業内容
 杉戸リサイクルセンター運営、グリーン購入事業、3R事業、エコ支援事業(エコ・カレンダー、認証取得支援、車両・燃料、飼料・堆肥化、くらし貢献)
- リサイクルフロー



※ 設立3年目を終え、ビジョン作りに入る。循環型社会づくりに何ができるのか、社会にどう貢献できるのかを考えている。